

宮城県石巻市を中心とする東日本
大震災被災地の復興支援に愛知教育
大（刈谷市）在学中から汗を流し、
二〇一八年にがんのため二十九歳で
亡くなった蒲郡市の小学校教諭、小



田太郎さんの残した写真や活動記録
を紹介する展示が、同大で二十六日
まで開かれている。会場の図書館に
は教員を目指す後輩らのほか、小田
さんの友人も訪れる。

小中学校の同級生で、中学では剣

「太郎」の記憶

道部で一緒だった名古屋市天白区の
女性（三）は「面白くて優しくて、周
りの人を明るくするのが好きだっ
た」と人柄を語る。最後の夏の大会
が印象に残っている。試合で惜敗し
た女性が防具を取ると、小田さんが
近寄り「『一本取ったし、すごい
よ。頑張ったよ』と言ってくれた。
うれしかった」。

教員になった後も被災地を訪れ続
けた小田さん。女性は「テレビに映
らないリアルな被災地の姿を残して
くれた。太郎が現地を見たことを学
生の皆さんにぜひ知ってもらい、防
災教育に生かしてもらえたら」と願
った。
(神谷慶)